

事例 1

腕時計部品で培った精密切削加工で、 5G 基地局間通信向け 次世代同軸コネクタを開発

(株)タイセー

通信機器部品や半導体デバイス、高周波チップ部品などを手掛ける(株)タイセー(埼玉県秩父市)は、第5世代通信(5G)向けの製品の拡充を急いでいる。18GHz(ギガヘルツ)周波数帯域対応の同軸コネクタ類(SMA=サブミニチュアタイプA)をすでに出荷しているが、高周波帯域(ミリ波帯域)へ対応した高周波デバイスの品揃えを増やした。2021年4月には40GHzに対応するレセプタクルやアダプタ、終端器などの同軸コネクタ類を開発。今後は同軸コネクタ類のほか、アンテナやフィルタ、分配合成器、増幅器などラインナップを拡充していく。精密切削加工技術が5G技術の発展を支える。

時計の電子化をきっかけに電子部品分野へ

腕時計部品を手掛ける精密部品メーカーとして1962年に創業したタイセー。以来、切削加工技術を核にしたさまざまな生産技術を磨いてきた。時計の電子化に伴い、抵抗器やコンタクトプローブ、電子デバイス、半導体デバイス、圧力センサ、

OA機器などの多様な部品や製品分野に進出。製造のみならず開発と設計、製造、販売までを一貫して行う。現在は国内に(株)タイセーとして3カ所の生産拠点と2つのグループ会社の生産拠点を有する。また中国・広東省にカーエレクトロニクスと電子部品の生産拠点がある。

通信機器分野では4G規格時から基地局関連の同軸コネクタやアンテナ、分配器、終端器、増幅器などの部品を開発製造してきた。5Gインフラの整備・拡大に伴い、スマートフォンや放送、スマートファクトリーをはじめとしたリモート制御を伴う産業機器、自動車の車間センサなどのニーズが高まるとにらみ、これらの分野に対応する同軸コネクタ類の開発と製造を急ぐ。その先陣として2.92mm口径(Kコネクタ)のレセプタクルとアダプタ、終端器を商品化した(写真1)。これらは5G基地局間通信を行う機器に搭載される



写真1 2.92mm口径(Kコネクタ)のレセプタクル、アダプタ、終端器

会社概要

会社名 (株)タイセー
所在地 〒369-1593 埼玉県秩父市下吉田 6972
TEL 0494-77-1211
設立 1964年
代表者 代表取締役社長 笠原 晃二
従業員数 380名
事業内容 精密部品、電子部品・モジュール・機器の設計、開発、製造、販売、精密樹脂成形、半導体ウエハの精密研磨加工